十勝毎日新聞　2007年(平成19年)9月21日(金曜日)

R&B検討会発足へ

帯畜大研究成果 "売り込み策"探る

構想策定で市

帯広版リサーチ・ビジネスパーク（R&B）構想策定に向け、帯広市は近く、帯広畜産大学、帯広商工会議所などの関係者を集めた検討会を発足させる。メンバーは、8人程度で、帯畜大が管内外の企業に研究成果（シーズ）を売り込む流れをどう商業化させるかなどを探る。シーズ提供の中核を担う帯畜大の活用を軸とした論議が進む見通しだ。（宮城由彦）

同構想は砂川敏文市長の3期目公約で、今年度中に策定する。道内では北大キャンパスに研究施設、道立試験機関を集積し、ベンチャービジネス創出を目指す「北大R&B」の動きがある。道が渦却する類似事業は函館市（水産物を原料にした機能性商品開発）などでも進んでいる。

帯広では文科省の「都市エリア産学官連携促進事業」指定を受け、十勝圏振興機構などが手掛ける、農産物関連のシーズや産業クラスターの取り組みが基盤となる。市は帯畜大が今年度着手した「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成」事業にも協力、構想への波及効果を期待する。

構想策定に向け、市は主に「産」が「学」にシーズの芽を提供してきた従来の連携にとどまらず、「学」が盛んにシーズを生み出して事業化を促す道筋を想定。帯畜大、地元企業の関係者から個別に意見を聞いてきた。食品加工分野にとどまらない連携の広がりも含め、具体的な仕組みを整えるとでは課題も多い。

帯畜大のある教育は「R&Bは『産』と『学』が集積し、日常的に接する組織、場所の"鍋"を用意できるかが焦点。シーズを引き出すには、既存制度を精査して研究者への政策的補助を設けるのも手」と提案する。

市政策室は「新たな視点の連携実現が容易でないのは確か。さまざまな課題について意見をもらい、構想に反映したい」としている。

リサーチ・ビジネスパーク（R&B）産学官連携による新産業創出事業。大学、試験研究機関の集積地に研究開発から事業化まで一貫して果たす拠点を設け、新技術・新製品開発に伴う新産業やベンチャー起業を促す。